

5月31日(月) 移動献血車が来村します!

～輸血用の血液がたいへん不足しています～

献血の際は、新型コロナウイルス感染予防のため、消毒、検温、換気等を徹底して行いますので、皆様のご協力をお願いします。また、献血協力者には後日、血液検査結果が直接届き、ご自身の健康状態の把握にお役立ていただけます。

なお、献血場所と時間は次のとおりです。

献 血 場 所	時 間
平 田 村 役 場	9:30～10:30
D I C イ ン テ リ ア (株)	12:00～13:00
ひ ら た 中 央 病 院	13:45～15:45
あぶくま高原道路管理事務所	16:30～17:00



※健康カレンダーに掲載している日程から変更になりました。

《 献 血 で き る 方 》

1. 年 齢 満16歳以上70歳未満の方
(65歳以上の方は、60歳から64歳までの間に献血された方)
2. 体 重 男性45kg、女性40kg以上の方
3. 血 圧 最高血圧が90mmHg以上の方
4. 間 隔 ◎成分献血＝男女とも2週間後
◎200ミリリットル献血＝男女とも4週間後
◎400ミリリットル献血＝男性12週間後、女性16週間後
5. その他 現在病気や妊娠中(過去6か月以内に妊娠していた方及び産後6か月以内を含む)でない方、また過去に輸血を受けていない方



健康アドバイス

公立小野町地方総合病院



院長
清野 義胤 医師

4月1日付で、公立小野町地方総合病院病院長に就任いたしました、清野義胤です。私は昭和61年に自治医大を卒業し、義務年限内では都路診療所、町立猪苗代病院において、地域医療を行なってきましたが、平成9年に星総合病院に赴任して以来、循環器専門医として、虚血性心疾患、心不全、不整脈などの循環器の急性期専門医療にずっと携わってきました。このような経験を活かし、公立小野町地方総合病院診療圏においても、従来の地域医療の他に、動脈硬化性疾患発症の予防、心房細動をはじめとする不整脈疾患の診断と治療、心不全の在宅管理を含めた慢性期治療など循環器疾患について、星総合病院と連携を取りながら推し進めて行きたいと思っております。平田村の高齢化率は令和3年4月1日で33.6%とさらに進んでおり、過疎化・高齢化が進んだこの地方において地域医療を進めて行くためには、地域包括ケアシステムの構築が必須と考えます。田村医師会長をはじめとする当該診療圏の地域の先生方にご指導いただき、渡辺直彦前病院長が立ち上げた地域包括ケア病棟をより有効に活用し、急性期治療を終えた患者の在宅までの移行期支援、在宅医療における再発・重症化予防、在宅における急変時の対応、看取り等の在宅医療を含めた地域包括ケアシステムをより充実したものとし、当該診療圏の地域医療により一層貢献できるよう努力していきたいと思っております。

今後、色々と至らない点が多々あると思いますが、ご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い致します。

総合健診のお知らせ

今年の総合健診も、**完全予約制**で実施します。また、新型コロナウイルス感染症予防のため、受付時間ごとに受診人数を制限させていただきます。マスクを着用し受診するように、ご協力をよろしくお願いします。

健(検)診を受けるメリット

- ・生活習慣病のリスクを早期発見し、重症化を防ぎます。
- ・保健師、管理栄養士などから、一人ひとりに合った健康づくりの支援を受けられます。
- ・定期的に健診を受けている人は、健診受診によって健康意識が高まることや、早期発見によって病気が重症化しないことにより、医療費の節約になります。

村の健診の内容

- 特定健康診査
40歳～74歳
国民健康保険加入者
- 75歳以上健診
75歳以上で希望する方
- 19歳～39歳の健診
職場や学校で受ける機会がない方



がん検診・各種検査

平田村に住所がある方全員が対象です。ただし、会社などで受けている場合は対象外となります。

- 胃がん検診（バリウム検査）
40歳以上
- 大腸がん検診
40歳以上
- 肺がん検診（胸部レントゲン）
40歳以上
- 前立腺がん検診（血液検査）
50歳以上男性
- 肝炎ウイルス検査
19歳以上で過去に検査を受けていない方
- ピロリ菌検査
50歳～69歳で過去に受けていない方

○健診日程

6月16日(水)・6月17日(木)・6月18日(金)

6月20日(日)・6月21日(月)

○場 所

平田村勤労者体育センター

○時 間

午前中のみです。完全予約制となります。
指定された時間にお越しください。

○予約方法

各地区の保健推進員が、予約用のはがきを配付します。はがきをご記入の上、役場住民課
(☎55-33112) までご返送ください。

健康アドバイス

ひらた中央病院

新型コロナウイルス感染症に関連して

首都圏における緊急事態宣言が解除されるや3週間と経たないうちに再び感染者の増加がみられ、予断を許さない状況が続いています。

当院職員は4月中に1回目のワクチン接種は終了しました。もっとも危惧されている副反応はアナフィラキシーのようです。

アナフィラキシーとは全身のアレルギー反応のことでじんましんが出たり、呼吸が苦しくなったり、血圧が低下すると意識がもうろうとしたりといった症状が出ます。3月21日までに接種を行った国内の医療従事者では57万9千回の接種で181件の報告があり、0.03%くらいの発生率となりますがその後の調査でアナフィラキシーと言えないものも含まれていたのが分かり、実際はこれよりも少ないようです。接種後15分以内に起こることが多く、接種後30分くらいはその場で様子を見ることになると思われます。接種会場にはアナフィラキシーに対応できる薬剤などが準備されますので、過度に心配することなく受けるのが良いかと思われます。



院長
西山 宗一郎 医師

問い合わせ：ひらた中央病院 ☎ 55-3333